

2006 年度国際交流基金地球市民賞受賞者が決定しました。

今年度の「国際交流基金地球市民賞」受賞者3団体が下記のように決定いたしました。
授賞式は12月6日(水)午前11時より、国際文化会館(東京港区六本木)にて行ないます。

[受賞者]

ジュニア・グローバル・トレーニング・スクール実行委員会(青森県)

代表者: 工藤健 (実行委員長)

「日・米・韓・露の子どもたちが集う地球の学校」

活動内容: 毎年8月、日本、米国、韓国、ロシアの小学生100人が集まり、青森市内の小学校を宿舎に2泊3日で、国境を超えた友情をはぐくむ共同生活やねぶた祭りを体験する。日本人児童と外国人児童を2~3名で1組とする「バディ・システム」を取り入れ、高校生や大学生がボランティアとしてインストラクターや通訳を務め、子どもたちが主体的に参加し運営している。児童の保護者、学校、地元の企業や商店、自治体なども地域ぐるみで支援。スクール参加児童が高校生となりボランティア参加するなど、継続的な活動を行う。国際交流体験を通じて地球市民ジュニアの育成を目的としている。

授賞理由: これからの地域社会、そして地球社会を担う青少年たちの国際交流活動のモデルとなりうる。

*青森県からは初の受賞団体。

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京(東京都)

代表者: 王慧^{ワンフィデン}権 (代表)

「たぶんかフリースクール~外国籍の子どもたちのためへステップアップの機会を提供」

活動内容: 学校に行きたくても行けない外国籍の子どもたちのためのたぶんかフリースクール、高校進学を希望する親子のための進路・教育相談、多文化子育てネットワークなど、多文化の背景を持つ子どもたちの教育と家族の問題に特化した活動を行う。特に日本語が出来ないことで、外国籍の親子にとって日本の高校受験は難関であり、日本語の語学としての学習と、数学や英語等の教科を通しての学習、進路指導を含め総合的な支援によって高校進学へつなげている。

授賞理由: 多文化の環境にある子どもたちのステップアップのため現代社会の要請に応え、めざましい支援活動を行っている。

*東京都からは7年ぶり2団体目。

特定非営利活動法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(京都府)

代表者: 佐東範一 (代表)

「世界に踊りに行くぜ~地域と世界をつなぐコンテンポラリーダンス」

活動内容: 一般市民にとってなじみにくい身体表現活動であったコンテンポラリーダンスを日本各地に広め、各地に潜在するダンサーを発掘し、日本各地および世界の舞台上で踊る機会を提供。京都を拠点とし、日本と海外のダンサーたちによる共同創作のコーディネーション、あるいは日本の振付家/ダンサーや劇場・評論家などコンテンポラリーダンスに関わる人々の連絡先や活動についての情報発信を活発に行うなど、日本と世界をつなぐネットワークとなっている。

授賞理由: 社会と芸術を結ぶ中間支援型のNPOとして日本と世界のダンス関係者間のネットワークをつなぐとともに、海外の団体と振付家やダンサーの交流を通して共同制作を推進するなど、日本と世界のダンスネットワークの橋渡役となっている。

*京都府からは19年ぶり3団体目。

担当: 菅野幸子